

# 終末期医療に関する調査

## 【医師対象調査】

調査ご協力をお願い

ご多用中、突然で恐縮でございますが、現在、厚生労働省医政局では、患者の意思を尊重した望ましい終末期医療の在り方について、「終末期医療に関する調査等検討会」を開催し、有識者による検討を進めております。当検討会におきましては、一般国民及び医療従事者への「終末期医療に関する意識調査」を実施し、議論の参考にすることになりました。本調査は、平成5年及び平成10年に続き3回目の調査となり、これらの調査結果はわが国の終末期医療を考える上で重要な資料として広く活用されることとなります。

本調査は、全国の病院、診療所、訪問看護ステーション、介護老人福祉施設を無作為に抽出させていただき、医師3147名、看護職員3647名、介護職員2000名を対象としております。

また、本調査の結果は、全体を数値で集計するものであり、個別の施設名や個人名が表に出ることは一切ありません。

何卒、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただけますようお願い申し上げます。

### 【ご記入に際してのお願い】

- 1) ご本人がお答えください。
- 2) ご記入は質問の番号にそってお願いします。
- 3) 一部の方だけにお答えいただく質問もございますが、その場合は【...の方に】といった指示があります。
- 4) お答えはあてはまる番号に 印をつけてください。
- 5) 「その他」に をつけられた場合には、( )内に具体的にご記入ください。
- 6) ご記入は鉛筆または、黒・青のペン、ボールペンでお願いします。
- 7) 記入上おわかりにならない点などがありましたら、下記の新情報センターまでお問い合わせください。

### 【ご返送締切日】

ご記入いただきました調査票は、3月10日(月)までに返送用封筒にてご返送くださいますようお願いいたします。

平成15年2月

調査主体 厚生労働省医政局総務課

調査実施 社団法人 新情報センター  
東京都渋谷区恵比寿1-13-6  
電話 03-3473-5231  
担当 利光

問1 最近、終末期医療に関して「安楽死」「尊厳死」「リビングウィル(書面による生前の意思表示)」などの問題が話題になっていますが、あなたはこれらに関心がありますか。( は1つ)

- |            |                 |
|------------|-----------------|
| 1 非常に関心がある | 3 あまり関心がない      |
| 2 まあ関心がある  | 4 ほとんど(全く)関心がない |

問2 あなたご自身が治る見込みがない病気に罹患した場合、その病名や病気の見通し(治療期間、余命)について知りたいとお考えになりますか。( は1つ)

- |          |           |
|----------|-----------|
| 1 知りたい   | } → (問3へ) |
| 2 知りたくない |           |
| 3 わからない  |           |

問2-1 (問2で1をお選びの方に)この場合、病名や病気の見通しについて直接担当医師から説明を受けますか。( は1つ)

- |                    |
|--------------------|
| 1 受ける              |
| 2 家族に聞いてもらい、その話を聞く |
| 3 その他(具体的に )       |

問3-1 あなたご自身が痛みを伴い、しかも治る見込みがなく、非常に死期が迫っている(1ヶ月程度あるいはそれより短い期間を想定)と告げられた場合、心肺蘇生措置についてどのようにお考えになりますか。( は1つ)

- |                     |                   |
|---------------------|-------------------|
| 1 心肺蘇生措置は続けられるべきである | 3 心肺蘇生措置はやめるべきである |
| 2 心肺蘇生措置はやめたほうがよい   | 4 わからない           |

( ここでいう心肺蘇生措置とは死が迫った時に行われる以下の行為を指すものとします。  
「心臓マッサージ、気管内挿管、気管切開、人工呼吸器の装着、昇圧剤の投与等の医療行為」 )

問3-2 あなたご自身が痛みを伴い、しかも治る見込みがなく死期が迫っている(6ヶ月程度あるいはそれより短い期間を想定)と告げられた場合、単なる延命医療についてどのようにお考えになりますか。( は1つ)

- |                          |         |
|--------------------------|---------|
| 1 単なる延命医療であっても続けられるべきである | → (問4へ) |
| 2 単なる延命医療はやめたほうがよい       |         |
| 3 単なる延命医療はやめるべきである       |         |
| 4 わからない                  | → (問4へ) |

補問 (問3-2で2か3をお選びの方に)この場合単なる延命医療を中止するとき、具体的にはどのような方法が考えられますか。お考えに近いものをお選びください。( は1つ)

- |   |
|---|
| 1 痛みをはじめとしたあらゆる苦痛を和らげることに重点をおく方法                  |
| 2 単なる延命医療を中止して、自然に死期を迎えさせる様な方法                    |
| 3 あらゆる苦痛から解放され安楽になるために、医師によって積極的な方法で生命を短縮させるような方法 |
| 4 わからない   |

問4 あなたの担当している患者が治る見込みがない病気に罹患した場合、その病名や病気の見通し（治療期間、余命）について、まずどなたに説明をしますか。（ は1つ）

- 1 患者本人に説明する
- 2 患者本人の状況を見て患者に説明するかどうか判断する
- 3 家族に説明する
- 4 患者本人、家族ともに説明しない
- 5 わからない

問5 あなたは病名や病気の見通しについて、患者や家族が納得のいく説明ができていると考えていますか。（ は1つ）

- 1 できている
- 2 ある程度できている
- 3 できていない
- 4 わからない

問6 あなたの担当している患者が治る見込みがない病気に罹患した場合、その治療方針を決定するに当たり、先ずどなたの意見を聞かれますか。（ は1つ）

- 1 患者本人の意見を聞く
- 2 患者本人の状況を見て誰にするかを判断する
- 3 家族の意見を聞く
- 4 患者本人、家族ともに意見を聞かない
- 5 わからない

問7 あなたの担当している患者が痛みを伴い、しかも治る見込みがなく死期が迫っている（6ヶ月程度あるいはそれより短い期間を想定）場合、単なる延命だけのための医療についてどのようにお考えになりますか。（ は1つ）

- 1 単なる延命医療であっても続けられるべきである →（問8へ）
- 2 単なる延命医療はやめたほうがよい
- 3 単なる延命医療はやめるべきである
- 4 わからない →（問8へ）

補問1（問7で2か3をお選びの方に）この場合単なる延命医療を中止するとき、具体的にはどのような方法が考えられますか。お考えに近いものをお選びください。（ は1つ）

- 1 痛みをはじめとしたあらゆる苦痛を和らげることに重点をおく方法 } →（問8へ）
- 2 単なる延命医療を中止して、自然に死期を迎えさせる様な方法 }
- 3 あらゆる苦痛から解放され安楽になるために、医師によって積極的な方法で生命を短縮させるような方法
- 4 わからない →（問8へ）

（次ページ補問2へ）

補問2 (補問1で3をお選びの方に)このような方法がなされるとすると、その時にどのような条件が必要となるとお考えでしょうか。あなたのお考えに近いものをいくつでもお選びください。(はいくつでも)

- 1 医学的にみて患者が不治の病に冒され、しかもその死が目前に迫っていること
- 2 患者の痛みが甚だしく、誰もがこれを見るに忍びないほどであること
- 3 患者の痛みからの解放を目的とした治療が十分なされていること
- 4 患者本人の強い要請があること
- 5 方針の決定は担当医だけではなく、複数の医師又は医療チームによってなされること
- 6 医師が十分に患者に説明して、患者が納得した後で行われること
- 7 医師の手によることを原則とし、これができない場合は世間が納得できるだけの特別な事情があること
- 8 方法が常識的にも妥当なものとして認め得るものであること
- 9 その他(具体的に )
- 10 わからない

問8-1 あなたが担当している患者が痛みを伴い、しかも治る見込みがなく死期が迫っている(6ヶ月程度あるいはそれより短い期間を想定)場合、療養生活はどこを薦めますか。(は1つ)

- 1 なるべく早く今まで通った(又は現在入院中の)医療機関に入院を薦める
- 2 なるべく早く緩和ケア病棟(終末期における症状を和らげることを目的とした病棟)に入院を薦める
- 3 自宅で療養して、必要になればそれまでの医療機関に入院を薦める
- 4 自宅で療養して、必要になれば緩和ケア病棟に入院を薦める
- 5 自宅で最期まで療養を薦める
- 6 専門的医療機関(がんセンターなど)で積極的な治療を薦める
- 7 老人ホームに入所を薦める
- 8 その他(具体的に )
- 9 わからない

問8-2 自宅で最期まで療養できるとお考えになりますか。(は1つ)

- 1 実現可能である → (問9-1へ)
- 2 実現困難である
- 3 わからない → (問9-1へ)

補問 (問8-2で2をお選びの方へ)実現できないとお考えになる具体的な理由はどんなことでしょうか。お考えに近いものをお選びください。(はいくつでも)

- 1 往診してくれるかかりつけの医師がいない
- 2 訪問看護体制が整っていない
- 3 訪問介護体制が整っていない
- 4 24時間相談にのってくれるところがない
- 5 介護してくれる家族がいない
- 6 介護してくれる家族に負担がかかる
- 7 症状が急に悪くなったときの対応に自分も家族も不安である
- 8 症状が急に悪くなったときに、すぐ病院に入院できるか不安である
- 9 居住環境が整っていない
- 10 経済的に負担が大きい
- 11 その他(具体的に )

問9-1 あなたは世界保健機関（WHO）が作成した「WHO方式癌疼痛治療法」をご存じですか。

（ は1つ）

- 1 あることを知っている
- 2 内容をある程度知っている
- 3 内容をよく知っている
- 4 知らない

問9-2 あなたは、モルヒネの使用にあたって、有効性と副作用について、患者にわかりやすく具体的に説明することができますか。お考えに近いものをお選びください。（ は1つ）

- 1 説明できる
- 2 多少は説明できる
- 3 説明できない
- 4 その他（具体的に ）
- 5 わからない

問10 あなたご自身が、持続的植物状態で治る見込みがないと診断された場合、単なる延命医療についてどのようにお考えになりますか。（ は1つ）

- 1 単なる延命医療であっても続けられるべきである →（問11へ）
- 2 単なる延命医療はやめたほうがよい
- 3 単なる延命医療はやめるべきである
- 4 わからない →（問11へ）

（ ここでいう「持続的植物状態」とは「脳幹以外の脳の機能が障害され、通常3～6ヶ月以上自己及び周囲に対する意識がなく、言語や身振りなどによる意思の疎通はできないが、呼吸や心臓の動き、その他内臓機能は保たれている状態をいう」ものとします。

補問1（問10で2か3をお選びの方に）この場合単なる延命医療を中止するとき、具体的にはどのような時期に中止することが考えられますか。お考えに近いものをお選びください。（ は1つ）

- 1 意識不明の状態から回復しないと診断されたとき
- 2 生命の助かる見込みがないと診断されたとき
- 3 生命の助かる見込みがなく、死期が迫っていると診断されたとき
- 4 わからない

補問2（問10で2か3をお選びの方に）この場合単なる延命医療を中止するとき、具体的にはどのような治療を中止することが考えられますか。お考えに近いものをお選びください。（ は1つ）

- 1 人工呼吸器等、生命の維持のために特別に用いられる治療は中止してよいが、それ以外の治療（床ずれの手当や点滴等）は続ける
- 2 一切の治療は中止してもよい
- 3 その他（具体的に ）
- 4 わからない

問 11 では、あなたの担当している患者が持続的植物状態で治る見込みがない場合、単なる延命医療についてどのようにお考えになりますか。( は 1 つ )

- |   |                        |       |            |
|---|------------------------|-------|------------|
| 1 | 単なる延命医療であっても続けられるべきである | ————— | ( 問 12 へ ) |
| 2 | 単なる延命医療はやめたほうがよい       |       |            |
| 3 | 単なる延命医療はやめるべきである       |       |            |
| 4 | わからない                  | ————— | ( 問 12 へ ) |

ここでいう「持続的植物状態」とは  
 「脳幹以外の脳の機能が障害され、通常 3～6 ヶ月以上自己及び周囲に対する意識がなく、言語や身振りなどによる意思の疎通はできないが、呼吸や心臓の動き、その他内臓機能は保たれている状態をいう」  
 ものとします。

補問 1 ( 問 11 で 2 か 3 をお選びの方に ) この場合単なる延命医療を中止するとき、具体的にはどのような時期に中止することが考えられますか。お考えに近いものをお選びください。( は 1 つ )

- |   |                               |
|---|-------------------------------|
| 1 | 意識不明の状態から回復しないと診断されたとき        |
| 2 | 生命の助かる見込みがないと診断されたとき          |
| 3 | 生命の助かる見込みがなく、死期が迫っていると診断されたとき |
| 4 | わからない                         |

補問 2 ( 問 11 で 2 か 3 をお選びの方に ) この場合単なる延命医療を中止するとき、具体的にはどのような治療を中止することが考えられますか。お考えに近いものをお選びください。( は 1 つ )

- |   |  |                    |
|---|--|--------------------|
| 1 | 人工呼吸器等、生命の維持のために特別に用いられる治療は中止してよいが、それ以外の治療(床ずれの手当や点滴等)は続ける | } ————— ( 問 12 へ ) |
| 2 | 一切の治療は中止してよい   |                    |
| 3 | その他(具体的に   |                    |
| 4 | わからない  |                    |

補問 3 ( 補問 2 で 1 をお選びの方に ) 続ける必要があるとお考えになる医療はどれですか。あなたのお考えに近いものをお選びください。( はいくつでも )

- |   |                |    |           |
|---|----------------|----|-----------|
| 1 | 経管栄養(胃ろうを含む)   | 10 | 抗生物質の投与   |
| 2 | 点滴(維持輸液)       | 11 | 輸 血       |
| 3 | 中心静脈経由の高カロリー輸液 | 12 | 全身清拭      |
| 4 | 自動血圧計による血圧監視   | 13 | 喀痰吸引      |
| 5 | 心電図モニター        | 14 | 留置カテーテル導尿 |
| 6 | 気管切開           | 15 | 眼の乾燥防止    |
| 7 | 心臓マッサージ        | 16 | 酸素吸入      |
| 8 | 昇圧剤の投与         | 17 | その他(具体的に  |
| 9 | 床ずれの手当         | 18 | わからない     |

問 12 あなた自身が高齢となり、脳血管障害や痴呆等によって日常生活が困難となり、さらに、治る見込みのない疾病に侵されたと診断された場合、どこで最期まで療養したいですか。

1	自 宅	}	→ ( 補問 2 へ )
2	一般の急性期病院		
3	介護療養型医療施設、又は長期療養を目的とした病院		
4	介護老人保健施設		
5	介護老人福祉施設 ( 特別養護老人ホーム )		
6	その他 ( 具体的に )		
7	わからない		

補問 1 ( 問 12 で 1 をお選びの方へ ) なぜ、自宅で最期まで療養したいと思いますか。( はいくつでも )

1	住み慣れた場所で最期を迎えたいので	}	)
2	最期まで自分の好きなように過ごしたいので		
3	家族との時間を多くしたいので		
4	家族に看取られて最期を迎えたいので		
5	病院では自分の望むような状態で死ねないので		
6	家族や知人が自宅で最期を迎えたので		
7	その他 ( 具体的に )		

→ ( 問 13 へ )

補問 2 ( 問 12 で 1 以外を選ばれた方へ ) なぜ、自宅以外で最期まで療養したいと思いますか。( は 1 つ )

1	自宅では家族の介護などの負担が大きいため
2	自宅ではかかりつけ医など最期を看取ってくれる人がいないため
3	自宅で最期を迎えるのは、一般的ではないため
4	自宅で最期を迎えるのは、経済的に負担が大きいため
5	自宅では、最期に痛み等に苦しむかもしれないから
6	自宅では、緊急時に家族へ迷惑をかけるかもしれないから
7	自宅での療養について、家族が希望しないから
8	それまでかかっていた病院 ( 施設 ) の医師、看護師、介護職員などのもとで最期までみてほしいから
9	わからない

補問 3 ( 問 12 で 1 以外をお選びの方へ ) あなたはなぜ自宅で最期まで療養するのは、困難だと思ったのですか。( はいくつでも )

1	往診してくれる医師がいないから
2	訪問看護体制が整っていないから
3	訪問介護体制が整っていないから
4	24 時間相談にのってくれるところがないから
5	介護してくれる家族がいないから
6	自宅では、緊急時に家族へ迷惑をかけるかもしれないから
7	居住環境が整っていないから
8	経済的に負担が大きいため
9	自宅で最期を迎えるのは、一般的ではないから
10	自宅では、最期に痛み等に苦しむかもしれないから
11	わからない
12	その他 ( 具体的に )

問 13 あなたの患者が高齢となり、脳血管障害や痴呆等によって日常生活が困難となり、さらに、治る見込みのない状態になった場合、どこで最期まで療養したいですか。

- 1 自宅
- 2 一般病院
- 3 介護療養型医療施設、又は長期療養を目的とした病院
- 4 介護老人保健施設
- 5 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）
- 6 その他（具体的に ）
- 7 わからない

問 14-1 「治る見込みがなく、死期が近いときには単なる延命医療を拒否することをあらかじめ書面に記しておき、がんの末期などで実際にそのような状態になり、本人の意思を直接確かめられないときはその書面に従って治療方針を決定する。」(リビング・ウィル)という考え方について、あなたはどのようにお考えですか。( は1つ)

- 1 賛成する
  - 2 患者の意思の尊重という考え方には賛成するが、書面にまでする必要がない
  - 3 賛成できない
  - 4 その他（具体的に ）
  - 5 わからない
- } → (問 14-2 へ)

補問 1 (問 14-1 で 1 をお選びの方に) 書面による本人の意思表示という方法について、わが国ではどのように扱われるのが適切だとお考えですか。( は1つ)

- 1 そのような書面が有効であるという法律を制定すべきである
- 2 法律を制定しなくても、医師が家族と相談の上その希望を尊重して治療方針を決定する
- 3 その他（具体的に ）
- 4 わからない

補問 2 (問 14-1 で 1 をお選びの方に) 死期が近い時の治療方針についての意思について入院(入所)前、入院(入所)時、あるいは、入院(入所)後に、病院や介護施設(老人ホーム)から、書面により患者の意思を尋ねるという考え方についてどのように思いますか。( は1つ)

- 1 賛成する
- 2 反対である
- 3 わからない

補問 3 (問 14-1 で 1 をお選びの方に) 書面に残すとしたらいつの時期が良いと思いますか。( は1つ)

- 1 入院(入所)する以前に書類として残した方が良い
- 2 入院(入所)時に書面として残したほうが良い
- 3 入院(入所)後、ある時期に書面として残した方が良い
- 4 時期は、いつでもかまわない
- 5 わからない



問 14-2 (全員の方に)このような書面について、あなた自身はその内容を尊重しますか。( は1つ)

- |   |           |   |            |
|---|-----------|---|------------|
| 1 | 尊重する      | 4 | その時の状況による  |
| 2 | 尊重せざるを得ない | 5 | その他(具体的に ) |
| 3 | 尊重しない     | 6 | わからない      |

問 14-3 事前に本人の意思の確認ができなかった患者の場合、「家族や後見人が延命医療を拒否したら、それを本人の意思の代わりとして治療方針などを決定すればよい」(代理人による意思表示)という考え方についてどう思いますか。( は1つ)

- |   |              |            |
|---|--------------|------------|
| 1 | それでよいと思う     |            |
| 2 | そうせざるを得ないと思う |            |
| 3 | そうは思わない      | ( 補問 5 へ ) |
| 4 | その時の状況による    |            |
| 5 | その他(具体的に )   |            |
| 6 | わからない        |            |

補問 4 (問 14-3 で 3 以外を選びの方に)代理による意思表示の時、代理として意思表示する人は誰が適当だと思いますか。( は1つ)

- |   |                 |    |                         |
|---|-----------------|----|-------------------------|
| 1 | 配偶者             | 8  | 主治医以外の医師(かかりつけ医等)       |
| 2 | 兄弟姉妹            | 9  | 病院や介護施設の職員(看護師、介護福祉士など) |
| 3 | 子 供             | 10 | 福祉事務所など公的機関に所属する人       |
| 4 | 親               | 11 | その他(具体的に )              |
| 5 | 後見人             | 12 | わからない                   |
| 6 | 家族以外の親しい人(友人など) |    |                         |
| 7 | 主治医             |    |                         |

補問 5 (問 14-1 で 2 又は 3 をお選びの方に)家族の中で意見がまとまらない場合、意思表示の書面がない時、延命医療の中止の判断はどのようになさいますか。( は1つ)

- |   |                             |
|---|-----------------------------|
| 1 | 家族や親戚など多数の意見に従ってほしい         |
| 2 | 配偶者など最も身近な人の意見に従ってほしい       |
| 3 | 担当する医師の考えで決めてほしい            |
| 4 | 全員一致しなければ、延命医療が継続されてもやむを得ない |
| 5 | わからない                       |

問 15 単なる延命医療を続けるべきか中止すべきかという問題について、医師と患者の間で十分な話し合いが行われていると思われますか。( は1つ)

- |   |              |   |            |
|---|--------------|---|------------|
| 1 | 行われていると思う    | 4 | その時の状況による  |
| 2 | 不十分と思う       | 5 | その他(具体的に ) |
| 3 | 行われているとは思わない | 6 | わからない      |

問 16 終末期医療において、治療方針について医師や看護・介護職員等の間に意見の相違がおこったことがありますか。( は1つ)

- 1 ある
- 2 ない → (問17へ)

補問 (問16で1をお選びの方に) その場合、意見の調整を多くの場合どのように図ってきましたか。( はいくつでも)

- 1 主治医の意見にもとづく
- 2 患者を担当している看護・介護職員の意見にもとづく
- 3 主治医と患者を担当している看護・介護職員の意見にもとづく
- 4 患者本人または家族との意見にもとづく
- 5 その他(具体的に )
- 6 わからない

問 17 あなたは、終末期医療において、どのようなことを今後重点的に行うべきだとお考えですか。あなたのお考えに近いものをお選びください。( はいくつでも)

- 1 痛みなどの症状の緩和方法の徹底と普及
- 2 患者や家族に関する専門的な精神科医やカウンセラーの関与
- 3 治療、ケアの方針に関する、医師と患者・家族との十分な話し合い
- 4 患者の死後、残された遺族に対する援助サービス
- 5 患者や家族の看護に関して専門的な知識・技術をもった看護師の関与
- 6 終末期医療におけるチーム医療の充実
- 7 その他(具体的に )
- 8 特になし

問 18 あなたは、終末期医療の普及に関し、どのようなことを充実していくべきだとお考えですか。あなたのお考えに近いものをお選びください。( はいくつでも)

- 1 終末期医療に従事する医療従事者数の確保
- 2 医師・看護師等医療従事者や、介護施設職員に対する、卒前・卒後教育や生涯研修の充実
- 3 研究活動の推進
- 4 患者、家族への相談体制の充実
- 5 在宅医療で十分な終末期医療が行えるような体制づくり
- 6 緩和ケア病棟の設置と拡充
- 7 一般病棟において十分な終末期医療が行えるような体制づくり
- 8 一般市民に対する教育活動
- 9 意思表示の事前文書などの法的整備
- 10 終末期医療への経済的評価
- 11 その他(具体的に )
- 12 特になし

問 19 あなたは、終末期医療に対して、悩みや疑問を感じた経験がありますか。あなたのお考えに近いものをお選びください。( は1つ)

1	頻繁に感じる	
2	たまに感じる	
3	感じたことはない	→ (フェースシートへ)

補問 (問 19 で 1 か 2 をお選びの方へ) 痛みを伴い、しかも治る見込みがなく死期が迫っている(6ヶ月程度あるいはそれより短い期間を想定) 患者の診療にあなた自身が携わって、どんな難しさを感じていますか。あなたのお考えに近いものをお選びください。( はいくつでも)

1	患者へ病名、病状の説明をすること	
2	痛みをはじめとした症状を緩和すること	
3	患者や家族と話し合う時間を持つこと	
4	患者や家族のための病院内の設備や終末期医療の施設が乏しいこと	
5	在宅医療を実施したくても、体制が十分でないこと	
6	延命のための医療を中止すること	
7	医療チームで意見がわかれること	
8	その他(具体的に	)
9	特になし	

【フェースシート】

最後に、あなたご自身のことについて、もう少しお伺いします。

F1 [性別]

1	男性	2	女性
---	----	---	----

F2 [年齢]

1	20～24歳	5	40～44歳	9	60～64歳
2	25～29歳	6	45～49歳	10	65～69歳
3	30～34歳	7	50～54歳	11	70歳以上
4	35～39歳	8	55～59歳		

F3 [職場] あなたの職場はどこですか。( は1つ)

1	診療所	
2	緩和ケア病棟	
3	一般病床(緩和ケア病棟を除く)	
4	療養病床(介護療養型医療施設を含む)	
5	その他(具体的に	)

F4 [所属する診療科] あなたが所属する診療科をご記入ください。

診療科(具体的に	)
----------	---

F5 〔質問に答えることになった理由〕あなたをご所属の医療機関・施設内で、この質問票への記入を担当した理由は次のうちどれですか。( はいくつでも )

1	勤務する診療科の性格上この質問票に関係が深いから	
2	高齢者の医療・介護担当だから	
3	緩和ケアに所属しているから	
4	患者の看取りが多いから	
5	役職者(院長、施設長、診療部長など)だから	
6	その他(具体的に	)

F6 〔入院〕あなたやご家族の方で、最近5年間に病気やけがで入院したことがある方はいらっしゃいますか。次の中からお選びください。( は1つ )

1	自分が入院した	4	その他(具体的に	)
2	家族が入院した	5	わからない	
3	自分、家族ともに入院した	6	入院したものはいない	

F7 〔死別の経験〕あなたは、最近5年間に身近な大切な人の死を経験されましたか。( はいくつでも )

1	家族を亡くした	3	友人を亡くした
2	親戚を亡くした	4	経験をしていない

F8 〔経験1〕痛みを伴い、しかも治る見込みがなく死期が迫っている(6ヶ月程度あるいはそれより短い期間を想定)患者の診療に当たったことがありますか。( は1つ )

1	あ る	
2	な い	
3	その他(具体的に	)

F9 〔経験2〕持続的植物状態で、治る見込みがない患者の診療に当たったことがありますか。( は1つ )

1	あ る	
2	な い	
3	その他(具体的に	)

( ここでいう「持続的植物状態」とは「脳幹以外の脳の機能が障害され、通常3~6ヶ月以上自己及び周囲に対する意識がなく、言語や身振りなどによる意思の疎通はできないが、呼吸や心臓の動き、その他内臓機能は保たれている状態をいう」ものとします。 )

F10 〔経験3〕脳血管障害や痴呆等によって日常生活が困難であり、さらに、治る見込みのない疾病に侵されたと診断された患者の診療に当たったことがありますか。( は1つ )

1	あ る	
2	な い	
3	その他(具体的に	)

ご協力ありがとうございました。